

義務教育学校か小中一貫教育校かについて

意見

- ・ 義務教育学校については、正直良く分からないが、前回の会合で教育長の「トップは1人が望ましい」の言葉で納得した。ただ、大崎学園のように校長1人に業務が集中しないよう、それを支える役職の立ち位置をしっかりと考えるべき。
- ・ 義務教育学校、小中一貫教育校、どちらも良いところがあると思う。
- ・ 義務教育学校で進めていくべきと考える。小中一貫校では中一ギャップなどの様々な問題を軽減していく解決にはならないと考える。「上市町の子供たちはこうだ!」という教育理念を示し、小中を通して子供たちとしっかり向き合っていく学校作りが必要ではないか。
- ・ 小中一貫教育で期待される効果を踏まえ、上市町で9年間を見据えた小中一貫教育を確実に進めることが上市町の子供たちを育てていくうえで肝要である。特に、現状を踏まえ、児童生徒に思いやりの心や助け合いの気持ちを育むことや、中1ギャップを解消し安心して学校に登校できること、そして学習意欲や授業の理解度が高まり、なりたい自分に向かって学ぶことができる学校にしなければならないと考えている。
- ・ その点から、小学校高学年から教科担任制を取り入れるなど、前期、中期、後期課程(4・3・2編成)の導入や、上市ならではの特色ある教育活動の設定をし、分かる授業、楽しくワクワクする授業、力を付けることができる授業を展開していかなければならない。一体型の義務教育学校または小中一貫校にすることによって、小中学校教員が双方のよさを取り入れた授業力の向上や、生徒指導上の連携体制を図ることができると考える。上市町で安心して子育てをしたい、上市町の魅力的な教育を受けさせたいと思える教育環境の整備を図っていかなければならない。
- ・ 町としての教育観、育てたい子供像を踏まえた9年間を見通した教育を進めるため、組織の長を一人にするかどうかについては、義務教育学校の校長は、校長一人で負担が多いと聞いている。義務教育学校のよさを取り入れた一体型小中一貫校である「にじが丘学園」は、校長二人で組織上問題がないのか、中期過程の乗り入れ授業をどのように行っているのか、教職員の連携体制や授業力向上、働き方改革の視点からも、視察を通してさらに検討していきたい。
- ・ 上市町の現在の小中連携の進捗を考えると、心苦しいが9年間の子供の成長を見据えた取組や研修には達することができないものになっていると思う。日々、毎年小中連携に努めていることに違いはないが、「上市町の目指す子供像」を町教委や教職員、町民で共有するため、児童生徒の「9年間の義務教育での学び」を教職員全員で共有するため

には1つの組織の方がよいと考える。

- 枠組みを義務教育学校とすると、教職員の定期異動のことを考慮すると、教員一人一人にとっては負担となることが多い。しかし、児童生徒にとっては小5・小6にあたる学年が、英語や理科等の授業が中学校の教科担任から受けることができるようになるなど、よいことのほうがたくさんあるように思える。
- 町教委や校長の判断、考え方にもよるが、小・中のしびりがなくなると、学校のカリキュラム上、いろいろなことが柔軟に行える、今まで考えになかったことができる、やってみる価値がある、というような学校になるように思う。
- 義務教育学校・小中一貫教育校のいずれをつくるにせよ、地域が学校を支え、学校が地域の中心となるようなコミュニティをつくろうとすることが先決だと考える。

質 問

- 先生方の意見を聞きたい。先生方はどちらの学校に、働きやすさ・やりがいを感じるか。

学校統廃合に係る教育環境の整備や通学手段等について

意見

(教育環境)

- ・ 地域ぐるみで子どもたちを育て、見守るような、関りをもてるような仕掛け・工夫があると良いと思う。
- ・ 新しい教育理念のもとで校区外からの生徒も受け入れる体制を整えていくのが良い。極端な話だがこの学校に子供を通学させたいと思う親御さんが上市町への移住を考えるかもしれない。
- ・ 上市町ならではの独自の教育を取り組んでいってはどうか。片山学園では通常授業のほかにテーブルマナーの授業があったりしたのを記憶している。福祉、介護や躰、マナーといった独自の授業を組み込んでいくことで生徒自身の人間力を形成していくような取り組みを是非考えていきたい。

(新校舎建設)

- ・ 特に中学3年生(9年生)の受験勉強や模擬試験の最中に、小学校低学年の子のにぎやかな声が聞こえてくると勉強の妨げになる気がする。建物の構造などで何かしらの配慮があってほしい。
- ・ 小中一貫校にしても義務教育学校にしても同一建物での新校舎が良い。建設用地、費用、工事期間の増大、維持管理、動力水光熱費などのランニングコストなどのデメリットもある。体育館、グラウンド、駐車場など共有できるのはメリットではないかと考える。
- ・ 現上市中学校グラウンドを新校舎建設用地として確保、まちなかに整備するべきと考える。役場庁舎、保健福祉総合センターなどの行政機関と一体化することによる横の繋がりが、北アルプス文化センターの利用向上などが期待できる。
- ・ 新校舎建設と並行して通学路、歩道の整備など総合的に街づくりを進めていく。
- ・ 生徒エントランス、ミーティングルーム、体育館、グラウンド、図書室、会議室、職員室、音楽室など共有スペースを小中学生が自由に利用できるようなレイアウトが良い。
- ・ 大崎学園には屋上にプールがあり驚きを隠せなかったが、防火水槽としての役割もあるほか、夏場の校舎の温度上昇を軽減する効果もあるのではと考える。しかしながら上市町では低層階(2階建程度)での新校舎を考えてみても良いのではなか。同時にバリアフリー、昇降装置、エレベーターなどの設備を充実させることが出来るのではないか。
- ・ 広域避難場所としての機能を持たせるため、合併浄化槽、非常用発電設備などの設備設置を検討していく。

(通学手段)

- ・ 通学手段は、バス通学を充実させ、学校行事に合わせた運行も取り入れて欲しい。数年前、日曜日の学習発表会（中学）の朝、運行されず、困ったことがあった。
- ・ 子供たちが安全に登下校できるように、歩いて登下校する子と、車やバスの動線をしっかり分けてほしい。保護者の送迎場所（駐車場）、バスの停留所にしっかりとスペースを確保してほしい。
- ・ 町営バスのスクールバス化は検討すべきと考える。
- ・ まちなかでの新校舎を想定した場合、徒歩、自転車での通学も現状と変わらないと考える。そのためにも総合的にまちづくりを進めていく必要がある。
- ・ 一時期よりは改善されたものの保健福祉総合センター周辺では相変わらず保護者の送迎車が多く、特に雨、降雪時はかなりの台数となっている。一般車両の出入りをコントロールできるスペースが必要となってくると考える。
- ・ スクールバス（又は町営バス）が必要となるが、建設場所が決まったら、校区ごとに通学路等の検討が必要になってくる。また、統合後の子供の居場所づくりを含め、地域・家庭・学校が連携して、円滑に統合の準備を進めていかなければならない。現段階の校区で児童生徒の安全な登校や地域行事への参画等、自分事として考えて検討していかなければ、子供たちの安心・安全確保につながらない。統合後も地域で子供を見守ったり交流したりできる体制を現段階から各校区で整備して町の方に提案していく必要がある。

質 問

- ・ スクールバス利用を考えると、まちなかではなく郊外に新校舎を建設する可能性もあるのか。例えば丸山総合公園付近とか。総合公園の利用価値というメリットはあるかと思うが、まちづくりという意味では方向性が違うように思われる。教育委員会の構想を聞かせてもらいたい。
- ・ 施設に関しても通学手段に関しても、建設地や敷地の広さ、環境が明確にならなければ、十分な検討が難しい。建設予定地等について想定していることや決まっていることがあれば教えていただきたい。
 - ― 教育委員会として、現時点ではバス通学も含めた通学手段を考えた場合、まずは郊外での建設は考えていない。中心市街地での建設が妥当と考えているが、上市中央小用地はスクールバスの出入りや用地の真ん中に用水が通っているなどの課題があると思う。
- ・ 今年は熊の被害件数が多発しており、現時点での集団登下校、緊急時の対応などの体制強化について聞かせてもらいたい。
 - ― 学校周辺で熊の発生が確認された場合は、保護者の方に送迎をお願いするなど、状況を見て判断している。

- 小学校児童の通学を考えると、この広い学区をカバーするには公共交通ではなく「スクールバス」が相当数必要になると考える。また、昨今のクマ出没のことを考慮すると中学生もスクールバス対応にしなければならないのではないかと考えるが、それが可能であるか、そういった考えがあるかどうか。
 - スクールバスについては、中学生の冬季利用も含めた台数や経路の検討が必要になるものと思われるが、今後、運行に係わる運転手確保などの課題もでてくるものと予想されることから、これまで同様に学校から半径 2 km 圏内については、小学生も含め徒歩通学が前提と考えている。
- 廃校後の各校舎の利用について具体案を聞かせてもらいたい。個人的な意見ではあるが、小規模オフィス、動画配信スタジオなどといった民間利用、水耕栽培などの産業拠点、宿泊施設、アウトドアキャンプ場、緊急避難場所(こちらは変わらないと思う)などあると考えるが。
 - 校舎の跡地利用については、教育委員会だけではなく町の公共施設適正化計画での位置づけも含め、また地元の意見も参考にしながら進めていく必要があると考えている。
- 学童保育施設や町教育センター、教育支援センター、給食調理場（あるいは給食センター）等の「児童生徒を支援する場所」については、新学校と一体化あるいは分散化するための、どのような策や工夫を考えておられるか。
- 前の問いとも関連するが、小学校の旧校舎をほぼそのまま残して一部活用し、学童保育施設や地域コミュニティにすることは可能か。
 - 給食調理場については、上市町では「温かいものは温かく、冷たいものは冷えた状態で美味しく」提供できる自校調理を旨としていることから、調理施設は校内が望ましく、学童保育施設については、放課後に安全に通えるよう、校内又は隣接が望ましいと考えている。なお、町教育センターや教育支援センターについては、発達支援に係る療育の場も合わせ、現小学校校舎の活用も含めた検討が必要と考えている。